

# 令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立熊野高等学校 校長名： 左 近 晴 久

**目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）**

個を認め合い多様性を尊重する中で、個々の進路に応じた知識や技能を身につけさせると共に、情報活用能力、課題解決力、コミュニケーション力などの、社会生活を営む上で必要な力の育成をめざす。

**学校評価の公表方法**

インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

<b>現状・進捗度</b>	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組			評価（1月31日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	授業の充実と、確かな学力の育成を図る。	C	教材研究に力を入れるとともに、生徒が主体的に取り組める授業展開を工夫するなど、授業力向上を図る。	教員がさらなる授業力向上を図る取組や工夫をしているか。	B	ICTの活用など、わかりやすい授業を実践している。	課題の配信や相互方向の授業では、通信環境に難がある。配信した課題を生徒自身が採点し、間違いの修正など自学のスタイルが確立できておらず、教員も取組状況の把握をしていく。看護科においては、なかなか学習に馴染めない生徒もおり、中学校訪問等で看護科の学びに対する説明が必要である。
			スタディサブリの活用や、機を見て宿題や課題を課すなどの取組を進める。	教員がさらなる生徒の学力向上を目指す取組をしているか。	B	補充プリントやスタディサブリを活用し、個に応じた指導を行っている。	
			特に看護科においては、専門性を高めるための基礎学力の定着を図るため、特に丁寧な指導と補習等を実施する。	基礎学力向上を目指しての、丁寧な指導できているか。	B	看護専門科目については、学習内容が多く困惑する生徒も多く、躓きを取り除くため面談や補習を実施している。	
2	キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。	B	進学・就職に対応できる学力および自身の進路について様々な情報を収集・整理し、具体的方向付けができる力を身につける。	進路実現に向けての段階的・系統的な取組みが効果的になされているか。客観的な学力分析や多岐にわたる進路希望への組織的な対応ができているか。	B	2回の外部テストによる学力診断及び分析会を実施した。スタディサブリを活用し、多岐にわたる進路希望を個別に対応した。	科目選択を含め、低学年から将来像をイメージさせるため、校内ガイダンスを適宜開催する。進路実現に対応した学力をつけるため各教科と協力して取り組む。看護科については、早い段階から就職試験が実施されるため、面接・小論文指導を組織的に行う。
			キャリア教育を通じて勤労観・職業観を高める。	生徒自身が自ら考え行動し決定できるキャリア教育がなされているか。低学年より校外のガイダンス・補習を効果的に実施し、進路未定者を減少させる取組みが系統的に進められているか。	B	1、2年生に外部講師による進路説明会やマナー講座を適宜開催した。コロナ禍インターンシップが実施できないため、ガイダンスにより、社会人基礎力の養成を図った。	
			看護科においては、実習や卒業生との交流などを通して看護師として必要な素養および意識を高める。	看護科5年間を見通した継続的な指導が行われているか。継続的・多面的な進路指導の実施により希望進路の決定率向上を図れているか。	B	今年度より、高校1年生から看護実習の授業が加わり看護職への素養を高めた。専攻科では、医療従事者による説明会、2年生の実習や研究の発表会を実施した。	
3	地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域での防災意識の向上を図る。	C	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年二回行う。	B	用水路清掃及び3年生による地域清掃を実施した。	地域貢献活動については学校行事やクラブ活動、生徒会活動として十分に達成できており、防災を含め高校生として自分たちの役割を認識できつつある。さらに多くの地域貢献活動を行うこと、その活動を広報できるよう、ホームページの整備に努めることを次年度の課題としたい。
			マンスリータイムズやアセンブリー等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。	ホームページへ掲載し広報活動を行う。	B	マンスリータイムズをホームページに掲載した。しかし、リアルタイム感にかけける。	
			上富田町と合同防災訓練を行う。	緊急時の避難行動や救命措置を適切にとることができるか。	B	地域住民の避難場所として、災害時には支援者となるべく、消防本部・自衛隊の協力による大規模な体験訓練を実施した。	
4	SCや関係部署等とも連携を密にしながら、挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	B	頭髪服装指導 新入生宿泊研修 在校生校内研修	学年アセンブリーでの点検指導の後も指導を継続できているか。	B	感染予防対策を講じ、学年アセンブリーで生活指導担当の講話や点検指導を行った。新入生研修については、泊を伴わず分散した形で実施した。	新入生の一斉研修や全校アセンブリーで上級生を見本とする場面が叶わず、コロナ禍以前のような効果は得られていない。挨拶やマナーについては、学校の風土として、上級生の様子を下級生に伝えられるよう、在校生に継続的に指導していく。生徒・保護者対応では、教員だけで相談するのではなく、専門家による見立てや外部機関と連携する体制が構築されつつあり、確立に努める。
			駐輪指導 遅刻・無断欠課防止週間 登校時自転車通学指導	校内巡視及び校門指導等の事後指導等を継続して行っているか。 遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行っているか。	B	登校時の交通指導については、日々の校門・駐輪指導に加え、PTAと連携し保護者の送迎についても、学校周辺道路の交通安全に協力依頼した。	
			SNSのマナー SC等との情報共有	些細な事象でも見逃さず継続した指導を行っているか。	B	SC・SSWの来校日に、ケース会議を開催し、専門家による見立てや事後指導など組織的に対応した。	

**学校関係者評価（2月15日実施）**

- ・コロナの影響により、ICTを活用した授業の形態が一気に進んだ。一方的になりがちで、生徒とのコミュニケーションをどのように図るかが課題である。
- ・教員だけでなく、生徒も積極的にタブレット使用するなど、授業でICTが活用されている。調べ学習などでは、分担して調べて、それをまとめるような授業形態も増えている。
- ・自宅に持ち帰らせたタブレットに課題を配信し、取り組ませるなど、学習用具としてタブレットを活用させている。
- ・再編整備による「今後の熊高の在り方」を学校運営協議会で熟議していく必要がある。
- ・学校の情報をもっと地域へ発信する必要がある。リアルタイムに情報発信ができるよう、見やすさや更新の方法など、ホームページのリニューアルを検討する必要がある。また、駅・町舎・文化会館などに掲示、町広報に記載してもらおうなど、目につく広報も利用する。
- ・近年定員割れの傾向にあるのが気になります。男女の比率も同じくらいになるように出来ればいいかなと思います。
- ・ここ2、3年はコロナ禍で、授業の様子や課外活動も制限される中で、少し可哀想な状況でしたが、創立百周年を迎え、新たな気持ちを持って、伝統を引き継ぎつつ、時代にマッチした校風を築いていってほしいと願います。
- ・他の学校と比べて校則が厳しいと不満を持っているかもしれないが、そのことにより生徒の状況が守られているところもある。だが、常識で考えてみて、時代に合わないものについては見直しを検討する必要がある。LBGTの観点から2種類の制服を用意し選択できるようになっている。